

AsianBeachGames

ビーチサッカー国際審判員 櫻田 雅裕

【会場】

インドネシア、バリ島にて開催された AsiaBeachGames の BeachSoccer の審判として大会に参加してきました。会場は Sanur というところからバスで 15 分程度移動した Mertasari beach にて行われました。



会場の砂の質は、日本の関東の砂と同じような質で、暑い日は砂もかなり高温になり、初日は競技者が「こんな暑さでは立ってられない！」とイライラするくらい暑い砂でした。

私もとても暑い砂によって、水ぶくれとなってしまう、おかげで(?!)翌日からは朝からピッチに水を巻いて頂き、ピリオド間も水を巻いて下さり、試合の間も水を巻いて下さり、とにかく水をたくさん巻いて砂の温度を下げる努力をされておりました。

ホームのインドネシアのゲームには、毎試合サポーターも来ており、大変盛り上がりました。

他の国はサポーターの数がインドネシアに比べると少なかったのですが、それでも熱のある応援がたくさんありました。

【期間】

大会は 10/18 ~ 10/26 まで行われました。他のスポーツとは違い、BeachSoccer のゲームは毎日行われました。試合の多い日は、1 日に 5 試合あり、たくさんの国の方々と接する機会を持つことができました。

また、毎日ゲームが行われることにより、私たち審判員も実践をしながら、競技規則の理解を深め、審判員チームとして、パフォーマンスをあげていくことに成功したことを実感できました。

当然のことかもしれませんが、選手たちもゲームを重ねるにつれ、上達していき、大会が進むにつれ、ゲームの質が少しずつ高くなり、大会全体として大きな成長があったことを感じられました。



【スタッフ】

現地のインドネシアの方々がスタッフを努めて下さっており、空港到着時からボランティアの学生スタッフさんに誘導されて、一般の方々とは違うゲート? から通して頂き、とてもスムーズに空港を通過することができました。

空港から出ると今度は、別のボランティアスタッフが車で私たちを滞在するホテルまで送って下さり、とても親切にして頂きました。

帰りも空港のスタッフは現地の学生スタッフだったのですが、私たちがスムーズに帰れるよういろいろとお手伝いをして下さり、とてもスムーズに出発することができました。

この期間は、インドネシアの学生はお休みらしく、たくさんの学生がいるいろいろなスポーツの AsianBeachGames のスタッフを担当して下さっており、たくさんの方々の協力のおかげで大会が成り立っていることを感じさせられました。

【宿泊地】

私達、ビーチサッカーのレフェリーはみんな、サヌールのホテルに滞在しました。

南国の観光地らしいホテルで、大きなプールもあり、部屋も広く、過ごしやすいホテルでした。

しかし、ホテルでの時間はほとんどが研修会やミーティングが入っており、たくさんの方々のことを学ぶ機会を設けて頂きました。仲間たちとともに過ごす時間が長かったおかげで、徐々にチームワークもよくなり、とても勉強になる時間を過ごすことができたことを嬉しく思っています。



【食事】

ホテルでの食事は、毎回用意されている数種類の中から選択して食事ができるようになっていました。

南国らしくスイカやメロンやパイナップルは毎回でていました。

食事は外国からたくさんの方がいらしていたためか、いろいろな国の料理が用意されていたように思います。

ホテルの近くには、ケンタッキーやマクドナルドもあり、なんとなく日本とそれほど変わらないような感じを受けました。



【街】

休み時間はほとんどありませんでしたが、少しジョギングをしているとマーケッ

トがあり、数 km は続いており、バッグやサンダルをはじめ、いろいろなハンドメイドのものが売られており、観光客で賑わっていました。

タイ式やインドネシア式などの様々な様式のマッサージのお店もたくさんありました。(私は場違いな場所でジョギングをしていたようでしたけど。。)

【交通】

島内の交通機関の主流はバイクであり、驚くほどの数のバイクが走っています。

バイクは本来2人乗りなのですが、3, 4人は当たり前で、すごいバイクは5人も乗車して走っています。バイクも車も日本製が多く、日本人だということと必ずバイクや車のメーカー名を私に話しかけてくるインドネシアの方が多かったです。

【試合】

全16カ国の国が参加した今回のAsianBeachGamesでは、予選は4チーム4ブロックの総当たり戦を行い、上位2チームが決勝トーナメントへ進出し、決勝トーナメントを8チームで行う形式で行われました。初めてビーチサッカーを経験する国や経験の豊かな国が入り混じった予選リーグでした。

私の感想は、中央アジアのチームはビーチを走ることに慣れており、ビーチサッカーには慣れていないものの、走ることのできる競技者が多いように感じました。また、インドはフィジカルコンタクトにとっても長けているチームでした。ビーチサッカーの経験がなかった(少なかった)ため、1勝もできませんでしたが、今後大きく飛躍できる能力を持っていると感じました。



さらには、今回は韓国チームも頑張っており、フットボール同様、よく

走り、サイドから崩してセンターリーグシュートを繰り返し行い、ビーチサッカーらしさはなかったかもしれませんが、とても強い印象を受けたチームの一つです。

アジア予選では優勝 U.A.E 3位イラン、4位中国だったのですが、イランも中国も決勝トーナメントには進出したものの、早々に敗退してしまい、新たに参加した国々の強さを感じさせられました。

決勝はOMAN-U.A.Eだったのですが、予選ではU.A.Eが勝ったものの、試合ごとに力をつけていったOMANが決勝では上手な試合運びで優勝しました。

我々レフェリーも大会開始当初は、競技規則をしっかりと理解できていない者もいて、ゲームを難しくしてしまう場面も少しあったかもしれませんが、毎日行われる、反省会と研修会にて、徐々にチームワークを向上し、競技規則の理解を深め、トーナメントに入る頃には、良いゲームコントロールができるようになってきたように感じ



じられました。

【感想】

今回、このような大会に参加させて頂き、とても良い経験となりました。

大会が進むにつれ、より多くの方々と話をできる機会を持つことができ、いろいろなことを学ぶことができました。

日本のビーチサッカー関係者に少しでも私の経験を還元できるようこれからも継続して頑張っていきたいと思っております。

今回このような機会を与えて下さった日本サッカー協会ならびに審判委員長松崎康弘氏、いつもビーチサッカーの活動を応援して下さるJBSNの伊藤寛之氏、さらには今回このように発表できる機会を与えて下さった秋山氏をはじめ、たくさんのビーチサッカー関係者、並びに職場の仲間たち、いつも審判活動を共に頑張っている仲間たちにこの場をお借りして感謝を申し上げます。

